

【認知症対応型共同生活介護用】

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年7月25日

【評価実施概要】

事業所番号	0770402469		
法人名	特定非営利活動法人 厚斯会		
事業所名	グループホーム フェアリー・1		
所在地	福島県いわき市植田町中央一丁目12番地の8 (電話)0246-77-0686		
評価機関名	福島県社会福祉協議会		
所在地	福島県福島市渡利七社宮111		
訪問調査日	H20.7.18	評価確定日	H20.8.25

【情報提供票より】(20年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年7月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	8人	常勤3人, 非常勤5人, 常勤換算3.8人	

(2) 建物概要

建物構造	木造り	
	2階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,200円		

(4) 利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	4名	男性	名	女性	4名	
要介護1	1名	要介護2		1名		
要介護3	2名	要介護4				
要介護5		要支援2				
年齢	平均	85歳	最低	82歳	最高	87歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	幸島(こうじま)病院、矢吹病院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、年間を通して、温暖で過ごしやすい地域にある。また、商店街の中に建っており、近くには金融機関がある等、徒歩圏での利便性が良い。大きな看板などもなく、外観からは施設というよりも、一般住宅の印象が強い。玄関を入ると、家庭的な雰囲気、来る人を迎え入れ、利用者が安らげる様子が感じられた。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 利用者に対しての接し方、記録の録り方など、改善すべき課題に対し、積極的に取り組もうとする強い姿勢が感じられ、少しずつ改善が見られた。また、ホームが地域住民の交流の場となるよう努力しており、さらには行政への相談についても積極的である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 前回の自己評価時よりも、サービスの質の向上や、安定したサービス提供に努めようとする姿勢が強く感じられた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5) 運営推進会議は、現在のところ活動報告のみの状況であるが、会議に出席した家族から、献立欄に「おやつ」の項目を加えてはどうかとの意見に、速やかに対応しサービスに反映させている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族との情報交換は、密に行うように努力しており、家族にも利用者にも耳を傾け、調整を図り信頼関係を構築してる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームが商店街に建っているという立地条件もあって、地域の祭り、歩行者天国などのイベントに参加して、地域住民との関わりを大切にしている。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立当初の理念を見直し、家庭的な環境の下で、自立した日常生活を営むことができるよう、利用者の人間性を尊重した事業所の理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取組んでいる	スタッフルームや共有スペースの目のつくところに理念を掲示し、管理者と職員は、常に運営理念を念頭に置いて、日々利用者に接している。		
2.地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所が季節の祭りや歩行者天国などが行われる道路に面しており、腰掛け用のベンチをセットして、地域の催しを楽しんでいる。また、近所の方との交流もあり、事業所の行事に地域の方を招くなどして、好評を得ている。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を通して、事業所のサービスを前年度よりも、向上させ質の良いサービス提供に努めようとしているが、自己評価を職員全員で取り組んでいない。	○	自己評価及び外部評価を実施する意義を職員に説明し、全職員で自己評価に取り組むようにしてほしい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は、取り組みの報告のみとなっているが、意見をサービス向上につなげられるよう努力している。しかし、会議のメンバーが近隣の方や、利用者の家族のみの出席で、地域包括支援センターや関係機関の出席はない。</p>	○	<p>今後の運営やサービスの質の向上の参考とするためにも、地域包括支援センターや関係機関の方の出席を依頼してほしい。</p>
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の家族には、毎月の生活状況、健康状況を手紙でお知らせしている。金銭管理については、利用者家族にあわせてファックスで報告することもある。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の面会時など、家族が意見等を話しやすい雰囲気作りを心がけている。些細な内容でも、待遇や運営に速やかに反映させている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>離職や新人職員による利用者への影響は、特に感じられていない。運営者は、職員に長く勤めてもらうことで、利用者に質の良いサービスが提供できるよう配慮に努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の育成について認識し、研修開催等の情報も把握しているが、職員の研修参加が進んでいない。		職員の研修等への参加機会を積極的に設けてほしい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政及び同業者から情報を得て、質の良いサービスの提供に努めている。県グループホーム連絡協議会に加入し、情報収集には努めているが、会議や研修への参加が少ない。	○	県グループホーム連絡協議会などの会合等に参加した際には、情報交換、交流を通じて、グループホームとしての専門性を高めてほしい。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者に体操を教えてもらったり、山菜料理の手ほどきを受けたり、利用者から学ぶこともあり、支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活歴等を考慮し、接し方にも配慮しており不安なく生活してもらえよう努めている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の状況、利用者及び家族の意向の把握に努め、介護計画を作成しているが、職員や関係者との話し合いや意見が反映されていない。		介護計画を作成するにあたっては、利用者や利用者家族の意向や要望や、さらに介護内容の評価を踏まえ、職員全員で意見交換や検討会議を行ってほしい。
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員が利用者の状況を確認し、利用者や家族の要望を取り入れながら、介護計画の見直しを行い、介護計画の見直しを行っている。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/	/	/

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診や突発的な受診においても、かかりつけ医による適切な医療体制が確保されており、家族及び病院との信頼関係もできている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の健康状態を把握し、医師の指導助言を受けている。また、利用者がどの段階まで事業所で生活し、どの段階から病院に移るかなどを家族、医師と調整し、方針の共有を行っている。また、看取りは行っていないが、今後検討していきたいと考えている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	生活面でのプライバシーの確保はもちろんのこと、記録等についても利用者や外来者の目に入らないよう、取り扱いには十分注意している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の家族構成の面、精神面でデリケートな方、重度化している方など、それぞれにその人らしい生活が送れるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の野菜料理の下ごしらえなどを、楽しく会話しながら利用者と一緒にいたり、料理の手順について職員が利用者に教えてもらったりしている。誕生日の時などには利用者の好きな刺身を献立メニューにして喜ばれている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間を設定することなく、好きな時間に入浴がすることができる。また、そのことを共有スペースに掲示し、利用者に案内している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	カラオケや折り紙など、職員も一緒に楽しんだり、利用者の一人ひとりの生活歴を活かし、楽しみごとを支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	利用者の希望に添って、近所の銀行や商店に出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害についての理解し、日中は鍵をかけていない。事業所の裏口(勝手口)などは網戸になっており、ごく普通の家庭を思わせる雰囲気になっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>火災等の災害に備えるため、年2回定期的に避難訓練を行っているが、地域住民の協力が得られていない。</p>		<p>街中にある利点を活かして、地域の方々にホームの存在を知ってもらい、災害の際には、協力を得られるよう働きかけてほしい。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一週を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事や水分の摂取状況確認はもちろんのこと、医師及び栄養士の指導助言により、個々の健康状態に応じた栄養管理に留意し、食事の提供を行っている。</p>		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有スペースの所々に、腰掛け用ベンチ、や椅子、畳敷きスペースがあり、くつろげる雰囲気がある。地域行事のポスターを掲示し、花が飾られ、季節感が感じられる。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅からの持ち込みはもちろんのこと、事業所の備え付けのベット等の使用を希望する場合も対応している。利用者の好みで居室が配置され、居心地の良い居室作りを心がけている。</p>		

 は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホームフェアリー・1

記入担当者名 矢部 美智子

評価結果に対する事業所の意見
特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目 を記入してから内容を記入してください。